

(2) 魅力ある集団づくり

ア 魅力ある集団づくりを学びへ

誰もが活躍できる集団
認められる集団

魅力ある集団

役に立てたらうれしいと思える集団
人と関わることが楽しいと思える集団

魅力ある集団づくりにおける学びとは

問題の回避や解決に向けて、自分たちで関わり、考え、判断・行動し、自分たちの成長に気づくこと。そして、それを新たな原動力にして、新たな課題の解決に向かっていくこと。

自己有用感を
高めるように

一人一人の成長欲求を満たせるよう、ちょっとした変化を認め、価値づけしていきましょう。

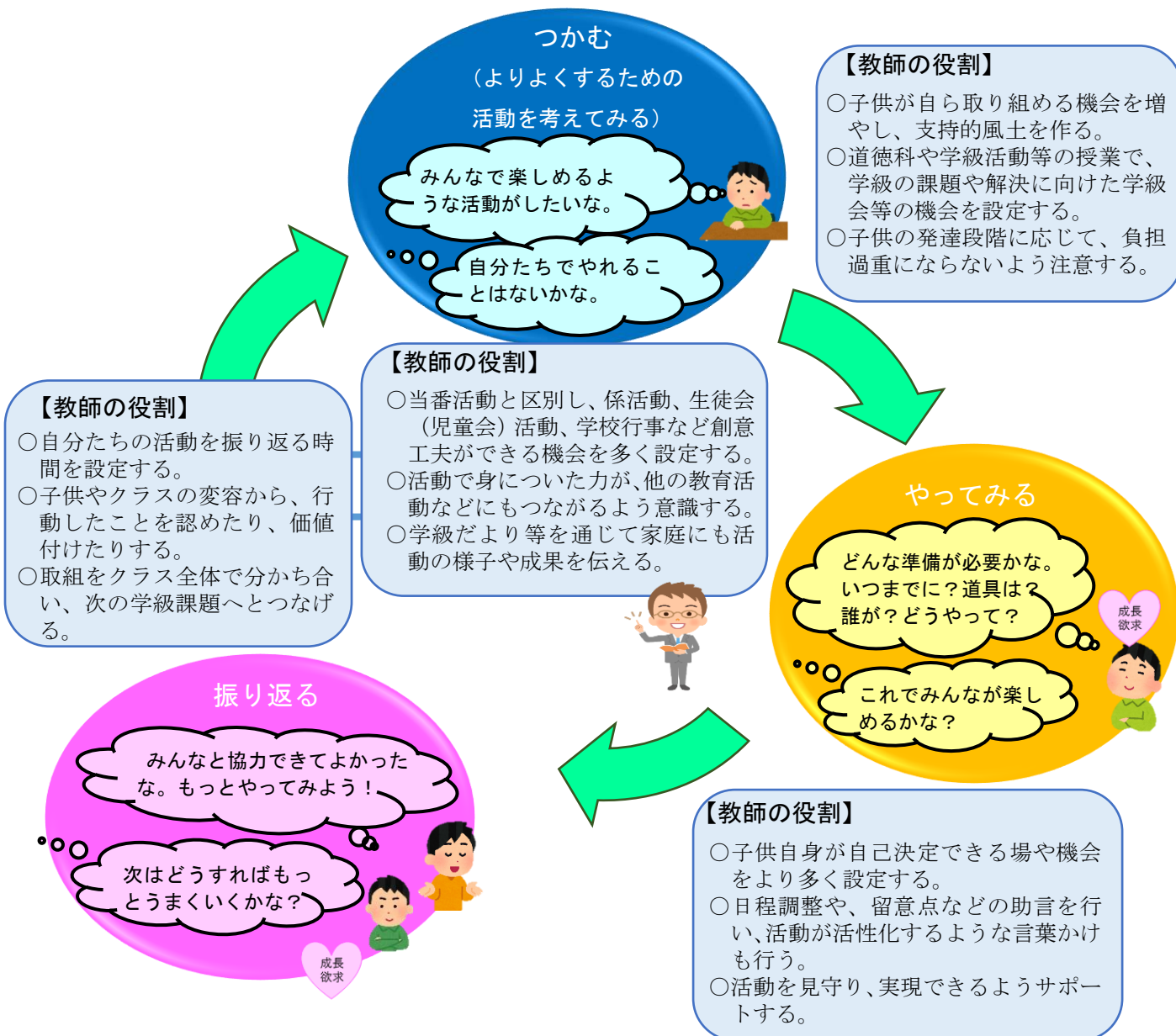
「今、できること」を

子供が自ら取り組める機会を増やす、自己決定する場を多く設定するなどのコーディネートをしましょう。

学校に行きたい いじめなんてくだらない
不登校・いじめを減らすために最重要

未然防止

イ 魅力ある集団づくりを学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿



ウ 魅力ある集団づくりを行う機会

学級活動、ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特別活動や日々の授業など、教育活動のすべての教育活動で行うことが重要です。問題を起こしそうな子供に特化して対応することなく、すべての子供たちを対象とします。

エ 関連資料

～不登校やいじめ問題の防止と解決、学校外のいじめ対応については～

生徒指導リーフ 「絆づくり」と「居場所づくり」 国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/>

子どもたちのSOSが聞こえますか？『いじめ問題の防止と解決に向けて』 佐賀県教育委員会

https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki_ji00333808

～組織的対応については～

生徒指導リーフ 学校の「組織」で行ういじめ「認知」の手順 国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf19.pdf>

～「居場所づくり」と「絆づくり」については～

生徒指導リーフ 「絆づくり」と「居場所づくり」

生徒指導リーフ いじめの未然防止Ⅰ、Ⅱ

生徒指導リーフ 特別活動と生徒指導

生徒指導リーフ 「教育的予防」と「治療的予防」

国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/>

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)

国立教育政策研究所

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_h301220-01.pdf

「学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」(教員向け指導資料)(平成28年3月)国立教育政策研究所

[ALL_chu-tokukatsu_YOS_F1.indd - tokkatsu_j_leafb.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j_leafb.pdf)

【コラム】「(心の)居場所」と「絆づくり(の場)」

「居場所づくり」とは、文字通り、学級や学年、学校を子供の居場所になるようにしていくことです。様々な危険から子供を守るという安全はもとより、そこにいることに不安を感じたり、落ち着かない感じを持ったりしないという安心感も重要です。そのためには、授業改善、授業の見直しから始めていくことが必要になります。

「絆づくり」とは、教師がきちんと「居場所づくり」を進めているという前提のもとで、子供自らが主体的に取り組む活動の中で、互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりできることです。子供同士と一緒に活動することを通して自ら感じとっていくものが「絆」であり「自己有用感」ですから、「絆づくり」を行うのはあくまでも子供(同士)です。

こうした視点で「授業づくり」と「集団づくり」を見直していくことができれば、いたずらにトラブルが起きることも、それがいじめへとエスカレートすることもなくなっていきます。きちんと授業に参加し、基礎的な学力を身につけ、認められているという実感を持った子供なら、いたずらにいじめの加害に向かうことはないはずだからです。

参考資料 生徒指導リーフ増刊号 いじめのない学校づくり1